

大学キャンパスにおける総合的學生支援 —学生総合支援室とカウンセラー・ソーシャルワーカーの協働—

○菊池 悌一郎 (九州工業大学)

下田 学# (九州工業大学)

はじめに

近年、大学キャンパスにおける学生支援、学生相談には、多岐にわたる問題やニーズが持ち込まれている。このような状況に対応するため、吉武 (2005) では「コミュニティ・アプローチモデル」、菊池 (2012) では「多水準介入モデル」が示されており、学生相談カウンセラーには個別のカウンセリングに加えて、グループ活動やコンサルテーション、関係者間の橋渡し機能、また危機状況におけるマネジメントなどの活動、役割が期待されるようになってきている。しなしながら、学生相談カウンセラーが、学内外のさまざまな資源を十分に活用し、いくつもの役割を担っていくのは、物理的にも機能的にも限界があり、別にそれらを担う専門性を有する人員、組織の設置が求められる。そこで発表者の所属する大学においては、従来の学生相談機関とは別に、新たに「学生総合支援室」を開設し、福祉の専門資格を持つ「キャンパスソーシャルワーカー」を配置した。ここでは学生総合支援室及びキャンパスソーシャルワーカーによる活動状況を報告し、さらに学生相談カウンセラーとキャンパスソーシャルワーカーの協働について検討する。

方 法

学生総合支援室：副学長（学生担当）を室長とし、キャンパスソーシャルワーカー（週3日勤務）、事務員である。また学生相談を担ってきた教員がカウンセラーを兼任したまま副室長として配置換えとなった。

相談窓口：3つの窓口を設けた。「学生なんでも相談窓口」、「障がい学生相談窓口」、「教職員サポート窓口」。これらの窓口については、チラシやホームページを通じて広報した。

活動：週1回程度の副室長、キャンパスソーシャルワーカー、事務員による「ミーティング」

を行った。ミーティングでは、体制や活動に関する事柄から、個別のケースについてまで広く協議した。また特に運営に関しては室長、担当事務員も交えた「室長会議」を2ヶ月に1回程度開催した。

結 果

開設1年目のX年度に学生総合支援室で対応した相談内容、件数をTable.1に示す。

Table.1 相談内容と件数

相談内容	件数（実数）
不登校	25
就職・進路	8
障がい	5
経済的	4
学業	3
メンタルヘルス	3
対人関係	1
ハラスメント	1
その他	11

また不登校学生への早期支援として、15件の「アウトリーチ活動」を実施した。さらに障がい学生支援として「ケース会議」を3ケース7回開催し、合理的配慮を踏まえた修学や学生生活の支援プランを策定した。

考 察

日本学生支援機構 (2007) では、「学生支援」を教育及び支援活動における相談機能全般、「学生相談」をカウンセラーによる心理的・専門的援助活動と整理している。今回報告した学生総合支援室の活動は、これらをつなぎ、効果的に機能するような「総合的學生支援」といえよう。協働を通して、カウンセラーとソーシャルワーカーの重複する機能について、互いの専門性に基いた役割分担が今後の課題となった。

本研究はJSPS科研費 26380931の助成を受けたものである。